



国際開発賞概要: [http://cloud2.gdnet.org/cms.php?id=midp\\_feature](http://cloud2.gdnet.org/cms.php?id=midp_feature)

応募詳細: [http://cloud2.gdnet.org/cms.php?id=2011\\_awards](http://cloud2.gdnet.org/cms.php?id=2011_awards)

\*\*\*\*\*

【news etc.】

\*\*\*\*\*

#### ▼GDN国際開発賞受賞NGO訪問レポート

2011年1月にコロンビアで開催された第12回年次会合で国際開発賞のファイナリストになったインドの2つのNGOを、GDN-Japanアドバイザーの林薫氏が8月に訪問しました。その時の模様を、林氏がレポートします。

JICA研究所ニューズレター2011年2月号でGDNの主要イベントで日本政府も協力している「国際開発賞」にインドからこれまでも多くのNGOがノミネートされていることが紹介されていますが、2011年1月にコロンビアのボゴタで開催された第12回年次会合で最終候補になった2件のNGOを、今回訪問しました。残念ながら一等賞はルワンダのNGOに授与されましたが、インドのNGOは2件ともユニークな活動で、今後が期待されます。

最初に訪問したのはBachpan Bachao Andolan(BBA [www.bba.org.in](http://www.bba.org.in))で、1980年に設立で児童労働の根絶と教育機会の拡充に取り組んでいるNGOです。インドでは安価な労働力として子供を働かせるケースがあとを絶たず、最近では経済発展にもなって、中産階級の家庭内での家事の児童労働の増加も問題になっています。BBAが取り組んでいる活動は児童労働の撲滅へ向けた啓蒙・広報活動などの「予防」と児童労働現場からの実際の救出と就学支援などの「保護」が2つの大きな柱です。インドでは児童労働は法律によって禁止されていますが、法の執行が完全には行われていません。そこでBBAでは行政当局、司法当局と協力して、法的な手続きを進めたり、企業に協力を呼びかけたりしています。特にユニークな活動はBal Mitra Gram (Child Friendly Village: 子供が安心して暮らせる村)というもので、村で子供の自治組織(Bal Pamchayat)をつくり、子供たちが自治に取り組むとともに、村の(大人の)自治組織(Gram Panchayat)と協働して児童労働の防止に取り組むというものです。大人と子供が力を合わせて、児童労働問題対処能力を高める、という点では、今主流の“キャパシティー・ディヴェロップメント”型のアプローチということができます。

BBAではこれまでに80万人の子供を保護しています。今回、デリーの郊外にある子供の一時収容施設“Mukti Ashram”を訪問しました。児童労働の現場から保護さ

れた子供を15～20日間收容し、その間に、読み書き、基礎的なライフスキルの訓練を行っています。收容された子供はほとんど持ち物がなく、汚れた状態ですので、まずシャワーを浴び、洗面用具、衣類を支給します。短期間ですが、基本的な生活習慣、他者とのコミュニケーションのとりかたなどのライフスキル、読み書きと計算などを勉強します。この間、親や行政の社会福祉担当者とも相談しながら、再発防止策を一人ひとり検討し、親または里親のもとにひきとられていきます。子供たちは7歳から16歳で、印象としてみな元気で積極的でした。「日本にも児童労働はあるのか」、「インドはなぜ貧しいのか」など、子供たちから質問攻めにあいました。今回、村レベルでの活動は時間の関係で訪問できませんでしたが、次回、ぜひ訪れたいと思います。

次に訪問したのは、Institute of Rural Research and Development (IRRAD: 農村調査開発研究所)です。これは1999年設立のNGOで、当初は生計支援などのニーズをベースにした農村開発からスタートしましたが、2008年から、「権利を基礎とするアプローチ」として、貧しい農民が法的に当然受けられるベネフィットその他の権利を実現する方向を重視しています。母体はM.Sehgal Foundationという大手の財団です。

インドには食糧の配給制度や学校教育など貧困層が権利として受けることができるさまざまな貧困対策が制度として設けられていますが、実際の運用は、行政の無関心、無能力、腐敗などで十分に執行されていません。そこで、特に生活に関係が深い、食糧の配給、さまざまな援助金、教育などに関し、村民が十分に理解して、もし行政が適切に対応しない場合、あるいは当然受けられる支援が受けられなかった場合に、権利主張をサポート、必要ならば請願や訴訟の支援を行っていく、というのがIRRADが現在、重視しているアプローチです。このように行政に是正を求めていくことによって、政府の政策の有効性の向上、行政能力の改善も図られていくことから、ガバナンスの改善が上位の目標に置かれています。

現在主な活動は、ハリヤナ州のMewat 地区で、発展が著しいグルガオンからわずか50キロの場所にもかかわらず、貧しい農村地帯です。住民はイスラム教徒で、このこともあって、行政の目が行き届かない状況です。ここで、IRRADではまず住民の代表に研修を行い、その中から研修員となる村民をさらに選抜していく方法をとっています。研修を受けた村民の中から代表を選び、村の問題を集約してIRRADとコミュニケーションを行っています。この活動を実施後、住民から行政の怠慢、不作為に対して行われる請願や訴えが増加し、確実に効果をあげてきています。

今回、Gharghas村で、村民のトレーニングセッションに参加しました。IRRADのスタッフが、各村落でどのような問題が起こっているかについての報告を求めましたが、村民から出た問題としては、食糧の配給が滞っている、所定の品目がすべて届いていない、などが代表的でした。IRRADスタッフが制度を説明するとともに、請願の提出方法、記載内容などについての指導を行っていました。また、IRRADのスタッフから子供を学校に通わせることの重要性とその手続きを説明しました。村民からは年金制度へ

の質問もありました。

訪問した2つのNGOは明確なミッションを持ち、事業を実施しながら、関係者の能力向上、政府の政策の改善、社会全体の意識の変革を目指していこうとしています。「自分たちが“Change Agent”にならなければならない」ということを強調するNGOが多いことがインドの特徴です。この背景には、一般経費まで負担できる大きなスポンサーが控えているなど財政的に余裕があり、委託事業に依存せずに、自らのミッションに基づいたニーズの発掘が可能であるという事情があります。委託事業に依存し、行政の下請けになっているNGOが多い日本にとって、インドから学ぶことは多いと思います。

BBAの活動家のブワンさんのコメントを紹介いたします。  
「NGOが政府の下請けになったらおしまいだ。”政府がこういうことを行うべきだ(行うべきではない)”という公共政策の提言を行うこと、同じことを行うにしても”こうやれば効果的、効率的にできる”というモデルを示すこと、この2つがNGOの役割として最も重要だ」

GDN-Japanアドバイザー／文教大学国際学部教授  
林 薫

参考：インドNGO-JICAジャパンスク ニュースレター 2011年9月号

[http://www.jicaindiaoffice.org/News/NGO-JICAJapanDesk2011-9\(revised\).pdf](http://www.jicaindiaoffice.org/News/NGO-JICAJapanDesk2011-9(revised).pdf)



▼GDN-Japan第23回ネットワーク会合開催のお知らせ

GDN-Japanの運営協議会・第23回ネットワーク会合を開催します。当日の議論の内容など詳細は、改めてお知らせいたします。

(1)日時:2011年10月28日(金)10:30~12:00

(2)場所:JICA研究所 4階 400号会議室

東京都新宿区市谷本村町10-5

地図: <http://jica-ri.jica.go.jp/ja/about/access.html>

(3)当日の議題案:

以下を予定しております。ご提示されたい他議案がございましたら、お知らせください。

【議題案】

- ① GDN-Japan事務局人事(事務局より)
- ② RNPドブロブニク会合報告(事務局より)
- ③ GDN理事会報告(林薫GDN理事より)
- ④ その他意見交換

▼GDN-Japanヘッド交代について

JICA内部の人事異動に伴いまして、10月1日付でGDN-Japanヘッドが小中鉄雄から島田剛に交代しました。つきましては、小中前ヘッドより退任のご挨拶を申し上げます。

GDN-Japanの皆様

本年10月1日付をもちまして、JICA研究所からJICA財務部に異動致しました。昨年9月に三輪修己前次長を引き継ぐ形で着任し、個人的には2度目のGDNに関与することができたにもかかわらず1年という短い期間で離れることになり正直残念な気持ちはございます。在任中GDN-Japanの皆様には多大なご支援・ご協力を賜り、心から感謝申し上げます次第です。

短い期間ではありましたが、本年1月のコロンビア(ボゴタ)での年次総会、6月のクローチア(ドブロブニク)でのRNPヘッド会合に参加し、GDN全体が創設から10年を経て、持続的かつ益々発展している様子を垣間見ることができ嬉しく思いました。

また、この間、日本代表理事も近藤正規先生から文教大学教授で当研究所のアドバイザーでもある林薫先生に交代、またGDNの理事長も元メキシコ大統領のエルネスト・セディーヨ氏からサセックス大学のアラン・ウィンターズ氏に交代する等の顕著な動きもありました。

GDNもGDN-Japanも徐々に進化・安定してきたとはいえ、まだまだ改善・拡充の余地はあると思います。特にGDN-Japanについては、メンバーの拡大や相互の連携強化、更には域外パートナーとの協力体制を含め、課題は色々考えられるところです。是非これまで以上にメンバー間で活発にご議論頂ければ幸いです。

本来、直接お礼にお伺いすべきところ、本メッセージのみのご挨拶となりましたこと、どうぞご容赦下さい。

末筆になりますが、皆様の更なるご活躍・ご健勝とGDN/GDN-Japanの更なる発展を祈念しております。

JICA財務部次長  
小中 鉄雄



▽次回は 2011 年 12 月下旬に配信予定です。

▽ご意見、ご感想などをお聞かせください。

[dritrn-gdn-japan@jica.go.jp](mailto:dritrn-gdn-japan@jica.go.jp)

▽お問い合わせ、配信先の変更・解除はこちらまでお願いいたします。

[dritrn-gdn-japan@jica.go.jp](mailto:dritrn-gdn-japan@jica.go.jp)



発行：GDN-Japan 事務局(JICA 研究所 企画課内)

制作：JICA 研究所 企画課 編集・発信ユニット

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町 10-5 JICA 研究所内

<http://www.jica.go.jp/gdn/japanese/index.html>